

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
水戸電子専門学校	昭和61年4月1日	八文字 和宏	〒310-0812 茨城県水戸市浜田2-11-20 (電話) 029-221-8738																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人八文字学園	昭和57年4月1日	八文字 蓉子	〒310-0812 茨城県水戸市浜田2-11-18 (電話) 029-221-8771																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																	
工業	工業専門課程	情報メディア学科		平成17年文部科学省 告示第177号	—																	
学科の目的	グラフィック、Web、映像、DTP、アニメーションなど各種クリエイティブ関連企業、および家電、電気設備、ネットワーク関連企業への就職を念頭に、当該分野の知識と技術の習得をめざす。																					
認定年月日	平成 26 年 3 月 31 日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技															
2 年	昼間	2000時間	362時間	0時間	1638時間	時間	時間															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
80人	25人	0人	14人	1人	14人																	
学期制度	■2学期:前期・後期 前期:4月1日～9月30日 後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A/B/C/Dの4段階評価。Dは不可。																		
長期休み	■学年始め: 4月1日～4月9日 ■夏季: 7月25日～8月25日 ■冬季: 12月23日～1月7日 ■学年末: 3月25日～3月31日		卒業・進級 条件	すべての科目においてD(不可)のないこと 卒業に必要な総授業時間数 1800時間																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者へは、教職員全員で協議、補講などで対応		課外活動	■課外活動の種類 校外清掃など地域ボランティア  ■サークル活動: 無																		
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) デザイン/印刷会社、電気/設備会社  ■就職指導内容 就職指導本部および担任による面接指導や企業情報指導など  ■卒業生数 16 人 ■就職希望者数 16 人 ■就職者数 16 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %  ■その他 特記事項なし  (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AFT色彩検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 いばらきデジタルコンテンツソフトウェア大賞2016「奨励賞」 いばらきデジタルコンテンツソフトウェア大賞2016「敢闘賞」			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定	③	6人	4人	マルチメディア検定	③	3人	2人	CGクリエイター検定	③	2人	1人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
AFT色彩検定	③	6人	4人																			
マルチメディア検定	③	3人	2人																			
CGクリエイター検定	③	2人	1人																			
中途退学 の現状	■中途退学者 1名 平成28年4月1日時点において、在学者25名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者23名(平成29年3月31日卒業生を含む)1名休学 ■中途退学の主な理由 進路変更のため  ■中退防止・中退者支援のための取組 入学時と入学後に様々な機会を利用し面接を実施、ケアを図っている。		中退率	4%																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度による減免  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科の ホームページ URL	URL: <a href="http://www.mito.ac.jp/technology/index.html">http://www.mito.ac.jp/technology/index.html</a>																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

全クリエイティブ領域に関して【企業側から】・業界における変化とそれに対する対応を聞き取る。・先進の機械設備や制作にかかわるソフト的なツールの状況を聞き取る。・業界動向変化の予測を聞き取る。・教育関連分野での情報を聞き取る。  
【学校側から】・カリキュラムの内容と指導法を企業に伝える。・研修等により、新しい業界動向を見聞した際は、それを企業側に伝える。・学生側からのカリキュラムや指導法につき要望があった場合、それを企業に伝える。最終的に、上記を踏まえつつ、協議により教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

実践的かつ専門的な職業教育の水準の維持向上を図るため、企業等との連携体制による課程の編成及び改善に資することを目的とし、カリキュラムの評価及び改善、授業内容・方法等の改善に関する事項について審議する。学校長を委員長とし、教頭、学科長並びに外部委員からなる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
中井 英一	茨城大学 理学部 教授	平成25年11月1日～平成30年10月31日(5年)	②
三瓶 哲也	JPC株式会社 代表取締役	平成27年11月1日～平成30年10月31日(3年)	③
武井 篤	株式会社 新日東 営業部	平成27年11月1日～平成30年10月31日(3年)	③
島田 裕之	茨城大学 教育学部 教授	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	②
掛田 達也	一般社団法人 茨城県情報サービス産業協会 理事	平成28年11月1日～平成30年3月31日(2年)	①
小澤 賢侍	公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部 セクションチーフ	平成27年11月1日～平成31年10月31日(4年)	①
広木 公	株式会社 近宣 支店長	平成25年11月1日～平成30年10月31日(5年)	③
坂 大樹	茨城デザイン振興協議会 副会長	平成27年11月1日～平成31年3月31日(3.5年)	①
八文字 和宏	水戸電子専門学校 学校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
助川 正己	水戸電子専門学校 教頭	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
相田 慎介	水戸電子専門学校 情報処理科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
平松 浩幸	水戸電子専門学校 情報システム学科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
橋本 克之	水戸電子専門学校 情報メディア学科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会の開催回数は年度2回開催を基本とする。

(開催日時)

第1回 平成28年8月30日14:00～16:00

第2回 平成29年3月22日14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員会における外部委員より行われた質疑・意見を元に、より積極的な職業実践教育を実現するための協力先を確保するよう努力。また、具体的なカリキュラムの改善や実習におけるグループワークの増量を実施していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業側は、時代に即した実際の仕事の進め方、および技術を指導。学校側は、それをサポートするとともに、ツールの基本と、デザイン全般の基礎知識を隔たることなく指導する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業側から人材を講師として派遣してもらい、週一回の授業を受け持っていただく。授業の中で、実際の仕事の進め方や業界のあり方など、実践的に指導して頂く。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
Web制作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1・2年の合同実習。Webデザインの知識と技術を習得し、最終的に各自Webサイトを完成させる。	株式会社 スタジオ サカ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

クリエイティブ業界全般の動向を把握し、最新の知識と技術を学び、学生指導に活かす。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

「DIGITAL FRONTIER GRAND PRIX 2016」に参加 有楽町朝日ホールにて 2016年4月3日(日) 15:00~17:30  
※デジタルハリウッドで学ぶ学生の作品上映会。実制作の状況やツールなどについて見聞。

② 指導力の修得・向上のための研修等

「3DCG学生・教員限定セミナー」に参加。期日:平成28年7月13日(水) 場所:明治大学 中野キャンパス  
時間:16:40~20:00  
※CG-ARTS協会および芸術科学会等が主催する学生・教員向け限定セミナー

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

文化庁が推進するメディア芸術関連セミナーや関連業界団体が主催するセミナーへ積極的に参加する予定

② 指導力の修得・向上のための研修等

指導技術力を向上させるセミナー等があれば積極的に参加する予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の自己評価に加え、企業・業界団体等が委員として参画する学校関係者評価を実施・公表し、組織的、継続的に学校運営を改善する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目標・重点目標・目標達成度
(2) 学校運営	運営方針・事業計画
(3) 教育活動	教育到達レベル、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準
(4) 学修成果	就職率・資格取得率・退学率
(5) 学生支援	学生相談・経済的な支援
(6) 教育環境	施設・整備、安全管理体制
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動
(8) 財務	学校の財務、予算・収支計画、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	個人情報、自己評価の実施と問題点の改善
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

就業先での卒業生のあり方(コミュニケーション力、社会力の重要性)を反省し、在学生への指導に反映。専門スキル偏重にならぬよう、モラルや協調性、社会性を十分に備えて卒業させうように改善。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
中井 英一	茨城大学 理学部教授	平成25年11月1日～平成30年10月31日	有識者
島田 宏之	茨城大学 教育学部教授	平成28年4月1日～平成30年3月31日	有識者
富田由紀夫	アイ・イー・シー株式会社 システム事業部長	平成25年11月1日～平成30年10月31日	企業役員
坂 大樹	茨城デザイン振興協議会 副会長	平成27年11月1日～平成31年 3月31日	業界団体役員
武井 篤	株式会社 新日東 営業	平成27年11月1日～平成30年10月31日	企業委員
小澤 賢侍	公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部セクションチーフ	平成27年11月1日～平成31年10月31日	業界団体役員
広木 公	株式会社 近宣 水戸支店長	平成25年11月1日～平成30年10月31日	企業役員
三瓶 哲也	JPC株式会社 代表取締役	平成27年11月1日～平成30年10月31日	企業役員
掛田 達也	一般社団法人 茨城県情報サービス産業協会 理事	平成28年11月1日～平成30年3月31日	業界団体役員
佐藤 有宣	佐藤畳店	平成25年11月1日～平成30年10月31日	地域住民
川上 典夫	川上陶器店	平成25年11月1日～平成30年10月31日	地域住民
山田 真起子	介護福祉士	平成25年11月1日～平成30年10月31日	地域住民
荻野 雅子	JPC株式会社 開発部 WEBデザイナー	平成27年11月1日～平成31年10月31日	卒業生
八文字 和宏	水戸電子専門学校 学校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	学校役員
助川 正己	水戸電子専門学校 教頭	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	教員
相田 慎介	水戸電子専門学校 情報処理科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	教員
平松 浩幸	水戸電子専門学校 情報システム学科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	教員
橋本 克之	水戸電子専門学校 情報メディア学科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

URL: <http://www.mito.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者の評価の実施、公表により、適切に説明責任を果たすとともに、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民による理解と参画を得ながら、自己評価結果の客観性、透明性を高め、学校として目指すべき重点目標を設定し、企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民の連携協力による学校づくりを進めていきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	情報システム学科の教育内容
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援、学内企業合同ガイダンスの実施
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事等(バスハイク、スポーツ大会、研修旅行、卒業旅行等)
(6)学生の生活支援	個別面談、三者面談等による協力体制、アパート暮らしの支援
(7)学生納付金・修学支援	学納金、奨学金や教育ローン
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果報告
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.mito.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報メディア学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			就職対策Ⅰ	就職するために必要な知識やテクニックを、マナー・コミュニケーション・プレゼンテーションをキーに指導。また、企業研究も行う。	1 前	26	1	○			○		○		
○			就職対策Ⅱ	就職対策Ⅰの内容を踏まえ、面接指導や各種シートの作成法指導など、後期明けに本格化する就職活動へ向けた、実践的対策授業を行う。	1 後	26	1	○			○		○		
○			就職対策Ⅲ	就職活動最盛期の期間。さらなる実践指導を行うため、個別指導の密度を高める。	2 前	26	1	○			○		○		
○			就職対策Ⅳ	就職内定者へは卒業までにしなければならないことを指導し、未内定者にはさらなる個別指導を通して内定へ導く。視聴覚教材を使いながら、社会人へ向けての希望を膨らませる。	2 後	26	1	○			○		○		
○			卒業研究	2年間学んできたことの集大成。Webデザインやアニメーションにかかわる卒業制作のために必要な知識を講義形式で指導する。	2 後	78	3	○			○		○		
○			卒業研究	Webデザインやアニメーションの実制作のための授業。さまざまなツールをそれぞれが使用するため、個別に指導することを基本とする。	2 後	108	7		○		○		○		
○			ビジネス実務Ⅰ	ビジネスに必要な知識、マナーなどを習得し、仕事をする上で重要となるコミュニケーション力も培う。また、ビジネス検定試験の取得を目指す。	1 前	26	1	○			○		○		
○			ビジネス実務Ⅱ	ビジネス実務Ⅰの内容を受け、さらなる知識と、より高い資格の取得をめざす。	1 後	26	1	○			○		○		
○			コミュニケーションⅠ	社会生活をする上で欠かせないコミュニケーション力を養うため、社会情勢や日常生活にからめた諸問題を討論しながら、問題提起～解決の手順を身につける。	1 前	52	2	○			○		○		
○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションⅠから更に進めて、より難易度の高い内容について考える力を養う。	1 後	52	2	○			○		○		
○			コミュニケーションⅢ	自分で問題を提起し、それを解決に導く手法を探り、解決後はそこから新たな問題を見出す。自ら考えることをより体系化した手法に基づき実証することを学ぶ。	2 前	52	2	○			○		○		

○		コミュニケーションⅣ	コミュニケーションⅠ～Ⅲを通して身に付けた力を、社会の中でどう活かしていくかを中心テーマに、数多くの討論を行う。	2後	52	2	○			○		○		
	○	工事担任者DDⅢ種Ⅰ	デジタルネットワーク回線接続技術者国家資格を取得するため、2年にわたり、「電気基礎」「技術」「法規」の学習を行う。	1前	26	1	○			○		○		
	○	工事担任者DDⅢ種Ⅱ	デジタルネットワーク回線接続技術者国家資格を取得するため、2年にわたり、「電気基礎」「技術」「法規」の学習を行う。	1後	52	2	○			○		○		
	○	工事担任者DDⅢ種Ⅲ	デジタルネットワーク回線接続技術者国家資格を取得するため、2年にわたり、「電気基礎」「技術」「法規」の学習を行う。	2前	26	1	○			○		○		
	○	工事担任者DDⅢ種Ⅳ	デジタルネットワーク回線接続技術者国家資格を取得するため、2年にわたり、「電気基礎」「技術」「法規」の学習を行う。	2後	52	2	○			○		○		
	○	家電アドバイザーⅠ	生活家電製品に関する知識と、製品および顧客に係る法律を学び、生活家電製品アドバイザー資格取得を目指す。	1前	26	1	○			○		○		
	○	家電アドバイザーⅡ	生活家電製品に関する知識と、製品および顧客に係る法律を学び、生活家電製品アドバイザー資格取得を目指す。	1後	46	2	○			○		○		
	○	家電アドバイザーⅢ	生活家電製品アドバイザー取得後、AV家電製品アドバイザー資格を取得することにより、「総合家電製品アドバイザー」資格取得を目指す。	2前	26	1	○			○		○		
	○	家電アドバイザーⅣ	生活家電製品アドバイザー取得後、AV家電製品アドバイザー資格を取得することにより、「総合家電製品アドバイザー」資格取得を目指す。	2後	46	2	○			○		○		
	○	色彩概論Ⅰ	各種デザイン分野で必須となる色彩に関する知識を学習し、「色彩検定3級」あるいは「カラーコーディネーター検定3級」の資格取得を目指す。	1前	52	2	○			○		○		
	○	色彩概論Ⅱ	色彩概論Ⅰから更に進め、色彩検定2級の資格取得を目指す。	1後	52	2	○			○		○		
	○	色彩概論Ⅲ	色彩に関する知識をより強固にするため、一人ひとりが、与えられたテーマについてレポート制作を行う。	2前	26	1	○			○		○		
	○	色彩概論Ⅳ	色彩概論の集大成として、研究発表を行う。各自の興味に合わせ、テキストでは習わない内容を織り込みながら、個人あるいはグループで研究、プレゼンテーションを行う。	2後	26	1	○			○		○		
	○	Web制作Ⅰ	Webデザインにかかわる基礎的知識の習得と、制作ツールの技術習得を目指す。	1前	72	3	○			○		○		○
	○	Web制作Ⅱ	さらなる知識の習得と、制作ツールの技術習得を目指しながら、アニメーションを含む各種コンテンツ制作に必要な知識・技術の習得もめざす。	1後	72	3	○			○		○		○

○	Web制作Ⅲ	ホームページの制作やアニメーションの実制作を通して、学んできた知識と技術をしっかりと定着させる。また、実制作の現場を見学したり、現役制作者の考え方も学ぶ。	2 前	36	1		○	○	○	○
○	Web制作Ⅳ	Webデザイン制作の集大成として、卒業研究と連動させる形で、オリジナルWebサイトをデザインする。	2 後	36	1		○	○	○	○
○	制作研究Ⅰ	アニメーション、映像、3D、音楽、スクリプト言語など、さまざまなツールを学生自らが能動的に研究する。	1 前	36	1		○	○	○	
○	制作研究Ⅱ	制作研究Ⅰを踏まえ、各自が選んだツール2点につきより深く研究し、プレゼンテーションする。	1 後	36	1		○	○	○	
○	制作研究Ⅲ	アニメーション、映像、3D、音楽、スクリプト言語に関する新たな興味を見出し、あらたな二つのツールを研究。	2 前	36	1		○	○	○	
○	制作研究Ⅳ	制作研究Ⅲを継続し、最終的に2つのツールにつきプレゼンテーションする。	2 後	36	1		○	○	○	
○	PC工学	コンピュータの構造を知識として学習し、更に自信の手によって組み立てを行うことで理解を深める。	1 後	72	3		○	○	○	
○	ネットワーク構築	Webサーバに代表されるネットワークをLAN内に構築し、その運用を学ぶ。	2 前	72	3		○	○	○	
○	CG概論Ⅰ	CG（コンピュータグラフィックス）とその周辺機器を使って、様々な制作領域の知識と実技を体験・学習する。	1 前	36	1	○		○	○	
○	CG概論Ⅱ	CG概論Ⅰで学んだ基礎的な知識と技術を、CG制作の実践の中で検証し、また、CGに関する各種検定試験に挑戦する。	1 後	36	1	○		○	○	
○	CG概論Ⅲ	より高度な技術習得を目指しながら、同時に高度な資格を取得するよう促す。	2 前	36	1	○		○	○	
○	デザイン制作実習Ⅰ	さまざまなデザイン分野を概観しながら、基礎的なデザイン技法を学んでゆく。	1 前	72	3		○	○	○	○
○	デザイン制作実習Ⅱ	グラフィック、Web、映像、DTP、3DCG、アニメーション、サウンドなど、様々な制作領域の知識と実技を体験・学習する。	1 後	72	3		○	○	○	○
○	デザイン制作実習Ⅲ	デザイン制作実習Ⅱをより推し進め、より高度なデザイン制作を実現できるよう指導する。	2 前	72	3		○	○	○	○
○	デザイン制作実習Ⅳ	卒業研究と連動する形で、よりデザイン性に富んだ制作物をつくれるよう課題制作を繰り返す。	2 後	72	3		○	○	○	○



○	ワープロソフトⅡ	Wordの学習を推し進め、MOS資格取得を目指す。	1 後	72	3		○	○	○					
○	ビジネスソフトⅠ	Microsoft Office SpecialistのExcelを学習し、MOS資格取得するための基礎的知識と技術を学ぶ。	1 前	72	3		○	○	○					
○	ビジネスソフトⅡ	Excelの学習を推し進め、MOS資格取得を目指す。	1 後	72	3		○	○	○					
○	ロボット制御Ⅰ	簡易ロボットを通し、製作とその制御を学ぶ。	2 前	72	3		○	○	○					
○	ロボット制御Ⅱ	自身の発想を具体的なものとしてロボットを作成し、その制御プログラミングを学ぶ。	2 後	72	3		○	○	○					
○	自由研究	自分が興味を持って学ぶことができる分野（グラフィック、Web、アニメーションなど）を選択し、研究形式で学習する。	2 前	72	3		○	○	○					
○	自由制作実習Ⅰ	これまで学んできた様々なツールを使いながら自由に制作活動を行い、それをプレゼンテーションする。	2 前	72	3		○	○	○					○
○	自由制作実習Ⅱ	自由制作実習Ⅰをさらに発展させ、それを卒業研究に取り入れながら、卒業研究制作物をより魅力的なものへと導く。	2 後	72	3		○	○	○					○
○	プレゼンテーション	Microsoft Office Specialist のPowerPointを学習し、MOS資格取得を目指すと同時に、ビジネスの場で必要なプレゼンテーションの知識と技術を磨く。	2 前	72	3		○	○	○					
○	映像制作実習	ビデオカメラによる撮影、Premiereなどの編集ソフトを使った編集を行い、映像制作を試み、プレゼンテーションする。	2 後	72	3		○	○	○					
合計				66	科目	2000単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：履修したすべての科目においてD（不合格）がないこと。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。